



J.Fukuda

サマースプリントシリーズ

THE KEENELAND CUP

第20回 キーンランドカップ (GIII)

1着	2着	3着	4着	5着
本賞 43,000,000円	17,000,000円	11,000,000円	6,500,000円	4,300,000円
付加賞 560,000円	160,000円	80,000円		



3歳以上 除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳555kg・4歳以上571kg、牝馬2nd減、2024.8.17以降GⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2nd増
牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1st増、2024.8.16以前のGⅠ競走(牝馬限定

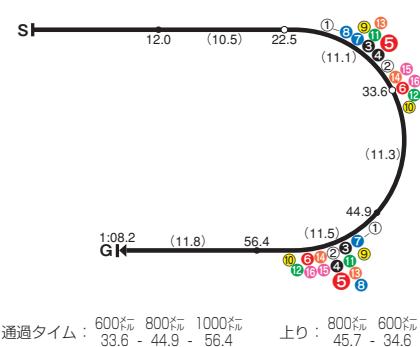
2022-5-21_北师大_高中_数学_教材PDF_二_二

2023.03.24 札幌 喜良 12R(馬連・複勝)												
着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝	調教師	レーティング
1	⑥	パンジャタワー	牡 3	57	松山弘平	1:08.2	8 - 7	33.9	488(+ 8)	5.5②	橋口慎介(栗東)	115
2	⑥	ペアボリックス	牡 4	57	松若風馬	%	3 - 3	34.4	476(- 4)	7.3④	梅田智葉(栗東)	109
3	⑯	カルブスペルシヨ	牡 3	53	横山武史	%	3 - 3	34.6	480(+20)	5.7③	石坂公一(栗東)	104
4	⑯	ナムラクララ	牝 3	53	浜中 俊	ハナ	5 - 5	34.4	486(+12)	12.3⑧	長谷川浩大(栗東)	104
5	⑩	ウインカーネリアン	牡 8	57	三浦皇成	ハナ	1 - 1	34.8	512(- 4)	5.4①	鹿戸雄一(美浦)	
6	⑯	カラフルエローチェ	驕 5	57	佐々木大輔	ハナ	5 - 5	34.4	490(-10)	19.1⑨	須貝尚介(栗東)	
7	④	エーティマクフィ	牡 6	57	戸崎圭太	クビ	8 - 7	34.2	466(- 4)	11.4⑦	武 英智(栗東)	
8	⑪	フレバレイ	驕 6	57	K.チーヤン	1/4	10-10	34.2	498(-2)	80.4⑩	須貝尚介(栗東)	
9	⑩	モリノドリーム	牝 6	55	C.ルメール	%	13-14	34.1	496(+ 2)	9.3⑤	鹿戸雄一(美浦)	
10	⑯	フィオライア	牡 4	55	坂井瑠星	クビ	2 - 2	35.1	466(土 0)	28.5⑩	西園正都(栗東)	
11	⑬	レイピア	牡 3	55	北村友一	1/4	10-10	34.5	510(+ 8)	9.7⑥	中竹和也(栗東)	
12	⑦	ケファシル	牡 5	57	A.バデル	%	13-14	34.4	490(- 6)	35.0⑫	池添 学(栗東)	
13	⑯	ジョーミッドヴィン	牡 4	57	松岡正海	クビ	10-10	34.7	514(+ 2)	90.8⑯	渕久潤司(栗東)	
14	②	エトヴプレ	牝 4	55	丹内祐次	アタマ	7 - 7	35.1	480(+18)	52.6⑩	藤岡健一(栗東)	
15	⑮	サンニッヒ	牡 7	55	武 雄	ミヅ	15-10	34.4	484(+10)	30.4⑪	池江泰寿(栗東)	
16	①	ツインクリトルース	牝 5	55	古川吉洋	3/4	16-16	34.7	514(土 0)	176.3⑯	牧 光二(美浦)	

单腾⑤550田(2人) 複腾⑤230田(3人) ⑥250田(4人) ⑩220田(3人) 枝浦②③2,980田(9人)

甲斐勝(5500円)(2人) 後藤勝(230円)(3人) (6) 250円(4人) (6) 220円(2人)
馬連勝(6) 2,870円(10人) ワイド(6) 6,170円(13人) (6) 6,690円(2人) (6) 1,050円(8人)

馬連5-6 2,870円(10人) ワイト5-6 1,170円(3人) 5-6 690円(2人) 6-6 1,050円(8人)
馬單5-6 670円(13人) 3連複5-6-1 5,780円(10人) 3連單5-6-1 30,510円(55人)



アラカルト

- ・松山弘平騎手はキーンランドC初勝利。JRA重賞は本年5勝目、通算53勝目。この勝利により史上7人目、現役では4人目となるJRA全10場重賞制覇を達成
 - ・橋口慎介調教師はキーンランドC初勝利。JRA重賞は本年4勝目、通算8勝目
 - ・タフワーブロンドン産駒はJRA重賞通算3勝目
 - ・3歳馬の勝利は21年レイハリアに続く通算4回目
 - ・非抽選馬（7頭）（サウザンサンニー、ティニニア、ルージュラナキラ、レッドアヴァンティ、レッドヒルシューズ、ロートホルン）
 - ・バンジャタワーはスプリンターズS（G1）に優先出走できる

パンジャタワー Panja Tower

牡 鹿毛 2022.2.21生
北海道新ひだか町 チャンピオンズファーム生産
馬主・株Deep Creek 栗東・橋口慎介厩舎
馬名意味・冠名+父名の一部

ソニンクGB系 B3		
タワーオブロンドン 鹿毛 2015	Raven's Pass 栗毛 2005	Elusive Quality
		Ascotney
	スノーバインGB 芦毛 2010	Dalakhani
		Shinko Hermes
	ヴィクトワールビサ 黒鹿毛 2007	ネオユニヴァース
		ホワイトウォーターアフェアGB
クラークスデール 黒鹿毛 2016	アコースティクス 鹿毛 2001	Cape Cross
		ソニンクGB

5代までのインブリード : Machiavellian M4×M4 Mr.Prospector S5×M5×M5

INTERVIEW

菅原通次 専務取締役(チャンピオンズファーム)

期待通りの結果となりました

出走馬中、唯一のGⅠ馬でしたし、オーナーや我々はオーストラリアのゴールデンイーグルに向けていいレースが出来ればという想いで観戦していました。その期待通りの結果となりとても良かったです。橋口厩舎の方々をはじめ、この馬のことを熟知している松山騎手、そして我々も含めたチームが一丸となって、この秋の大目標に向かっていきたいと思います。



Y.Maeda

NHKマイルCは9番人気での戴冠、この日は新馬戦以来の Sprinter Cup 戰、57kg の別定斤量を背負うこともあり、人気面では “半信半疑” の評価に甘んじた本馬だが、終わってみれば地方の違いは歴然としていた。外を回る口数を恐れず、自信満々にレースを運んだ松山騎手のリードに応え、初めて顔を合わせた古馬勢を難なく一蹴。ワールドオールスター・ジョッキーズの開催週とあって国際色に包まれた札幌から秋の目標に掲げる豪州のゴールデンイーグルに向け、順調な一步を踏み出した。

父タワーオブロンドン

北海道日高町 ダーレー・ジャパン・ファーム有限会社生産 持込 中央、香18戦7勝(スプリンターズS GⅠ、京王杯スプリングC GⅡ、セントウルS GⅡ、京王杯2歳S GⅡ、アーリントンC GⅢ)、21年から供用
(代表産駒)パンジャタワー(本馬)、レイピア(葵S GⅢ 3着)、アーリントンロウ(小倉2歳S GⅢ 3着)

母クラークスデール

北海道安平町 ノーザンファーム生産 不出走

タク(21 牡父デクラレーションオブウォーUSA)中央3戦0勝、地方17戦2勝
パンジャタワー 本馬(22 牡父タワーオブロンドン)中央6戦4勝(NHKマイルC GⅠ、京王杯2歳S GⅡ、キンランドC GⅢ)
獲得賞金229,230,000円
(23 牡父デクラレーションオブウォーUSA)
(24 牡父パイロUSA)
(25 牡父アドマイヤマーズ)

祖母アコースティクス

北海道早来町 ノーザンファーム生産 不出走。20年用途変更
ロジユニヴァース(06 牡父ネオユニヴァース)中央5勝(日本ダービーJpn I、弥生賞Jpn II、ラジオNIKKEI杯2歳S Jpn III、札幌2歳S Jpn III、札幌記念GⅡ 2着)、最優秀3歳牡馬、種牡馬
ベンティレイア(07 牡父ネオユニヴァース)中央2勝(栗島特別)、地方2勝、スティクス(知立S、汐留特別)の母
トーセンパワフル(10 牡父ネオユニヴァース)中央1勝(萩S 0P 2着)、地方1勝
クラークスデール(16 前出)
アドマイヤザーゲ(18 牡父ドゥラメンテ)中央3勝(宮崎特別、黄菊賞)

曾祖母ソニンク

不出走。01年輸入、12年死亡、**ノーザンリバー**(さきたま杯Jpn II 2回、東京盃Jpn II、アーリントンC GⅢ、カペラS GⅢ、種牡馬)、**ランフォルセ**(浦和記念Jpn II、ダイオライト記念Jpn II、エルムS GⅢ、佐賀記念Jpn III)、**ノットアローン**(若葉S 0P、ラジオNIKKEI賞Jpn III 2着)、**モンローブロンド**(ファンタジーS GⅢ 2着)の母、**ディアドラ**(秋華賞GⅠ、ナッソーS・英GⅠ)、**ジュヌエコール**(デイリー杯2歳S GⅡ)、**フリームファクシ**(現(きさらぎ賞GⅢ)、リューベック(現(若駒S・L)の祖母、ソングライン(安田記念GⅠ 2回、ヴィクトリアマイルGⅠ、富士S GⅡ)、**スキルヴィング**(青葉賞GⅡ)の曾祖母

サマースプリントシリーズの第5戦と位置付けられているキンランドCだが、今年の中堅勢力と目されたのはシリーズ初参戦の馬たち。4月のアルクオーツスプリントで2着に食い下がった古豪ウインカーネリアン、NHKマイルCの覇者パンジャタワー、1勝クラス戦から3連勝中の新星カルブスペルシューが、5倍台のオッズで1~3番人気を分けた。この3頭を含め、ひと桁の単勝オッズを記録した馬が6頭を数えた混戦ムードを一掃したのは、出走馬中唯一のGⅠウイナー。3歳マイル王パンジャタワーが格の違いを見出つけ、鮮やかな差し切りを飾った。先手を主張したワインカーネリアン

にフィオライアが競りかけ、2頭が雁行してレースを先導。前半600mの通過は33秒6と水準級のラップが刻まれていかなか、カルブスペルシューは3番手の外を進む。5番枠を引いたパンジャタワーの松山弘平騎手は、隣枠(6番)のペアポルツクスが好位のインに収まつたのに対し、中団馬群の外へ馬を誘導。いつでも動ける態勢を整えて仕掛けのタイミングを窺つた。迎えた直線、フィオライアを振り切り、いったんはリードを広げたワインカーネリアンだったが、残り200m地点を過ぎて失速。そこへペアポルツクス、カルブスペルシューが襲い掛かる。とはいえ、4コーナーから徐々に差を詰め、加速にかかるパンジャタワーはそれらを凌駕する末脚を披露。内先行勢を呑み込み、一気に先頭へ突き抜けた。

唯一のGⅠ馬が鮮やかに差し切り勝ち